第5章　日本綿花　ナポレオン喜多社長の誕生

一万俵の米国綿花を買い付ける
ええっどこからそんな注文が!?
日清紡の宮島清次郎さんや今は専務やけどあの人は間もなく社長になる会社をでかくされるはずや
頼むぞ
はいっ

しかし日清紡は明治四〇(一九〇七)年に設立されたばかりの会社大戦後の混乱で相当大変なはずでは……

宮島さんは世界を飛び回った喜多さんや喜多さんの部下の村田由蔵さんと親しくされているんだよ大変な時にお二方が手を差し伸べようとしているということだな

村田さんは日本の綿花では最高権威の一人といわれている方ですよね

宮島さんはこれまた決断力のあるお方で重役会でそんな大量の買い付けできる商社なぞあるはずもないと反対された際には「日本綿花の喜多さんの内諾を得ている責任を自分で取る」と皆を説得したそうだ

とするとこれはやっぱり……

その後、綿花相場はみるみる上昇した

喜多さんこの度は本当にありがとう

いえいえ価格が上がるかどうかではないです大戦で英国から全世界への輸出が細るそうなると日本にチャンスが訪れるそのチャンスを逃さないために助言しただけです

それにしてもよい部下をお持ちですね村田由蔵さんを私に預けていただけませんか?

ほう狙いは中国ですか御社名の「日清」は日本と清国の交易による繁栄を願ってのものいずれ日本の紡績会社が中国に紡績工場を作る時代がきますよ

その時に彼がきっと役に立つでしょう

喜多はこのように日本に大量の注文が舞い込んでくることを予想し紡績各社から大量の綿花の注文を得ていた

ホンマにそないに調達できるんか？

任せてください日本綿花の幹部に地球の裏側まで買いに行かせます そして綿製品を世界中に売ります

大戦中に大英帝国の市場をことごとく奪いましょう

大正六(一九一七)年第一次世界大戦の影響でニューヨーク綿花市場は南北戦争以来の高値を記録した

もっと綿花の調達網を広げろ このタイミングを逃すな 日本が世界一の紡績大国にのし上がるには今しかない！ インドから東、そして西へもや！

喜多社長っ ビルマ(現・ミャンマー)から綿花調達に日本で初めて成功しました！ ラングーン(現・ヤンゴン)に出張所を設立します！

次はインドの西からの報告です コンゴ、ソマリランド、スーダン、エチオピアなど東アフリカに社員を派遣し綿花の調達も開始しました！

よしっ今こそ日本綿花の開拓者精神をみせつけるんや！ 綿花の調達だけやないついで綿布も販売するんや

おーっ！

武藤山治は「紡績大合同論」を唱え合併を進め紡績王と呼ばれていた

喜多又蔵……この機を逃さず世界の綿花界を動かそうとしておる……

喜多は武藤山治からも信頼を得ていた

鐘淵紡績支配人
武藤山治（むとうやまじ）

あの男、まるでナポレオンじゃ

第一次大戦中の大正三（一九一四）年渋沢栄一が中心となって設立した大阪紡績と三重紡績が合併し東洋紡が誕生

日本綿花の発起人が出資し経営に関与した日本紡績・摂津紡績・尼崎紡績が合流し大正七（一九一八）年には大日本紡績（現・ユニチカ）となる

こうして東洋紡績、大日本紡績、鐘淵紡績からなる「三大紡績体制」が作られる

これら三社は日本の工業生産額の上位を占め日本の紡績業界を牽引していく

大正六(一九一七)年
喜多又蔵は弱冠四〇歳にして
社長に就任した

そしてこの年は
日本綿花創立
二五周年でもあった

二五年前の創立当時
日本の貿易額は
二億円に達しました
これなら
貿易を目的にした
会社を作っても
やっていけるだろう
との考えで日本綿花を
設立しました

ただ今や
日本綿花一社だけで
楽に二億円を貿易する
ようになりました

パチ
パチ
パチ
パチ

創立二五周年にあたり
これを記念して

普通配当二割、特別配当二割、
記念配当六割の一〇割配当を
実施いたします！

えっ？

一〇割配当
だって!?

これからも社員ひとりひとりが心を同じくしオール・ワン主義で協力・奮闘してもらいたい

おおーっ！

わあーわ

この頃
喜多は日本財界でも
著名人となっていた

我々は米国から
買ってばかり
売ることも
もっと考えよう
やはり日本の
特産品である
生糸も扱うべきだ

……よし
横浜に生糸取引専門の
店を構えろ

わかりました
ただ
伝手がありません

そうだな
市立大阪商業の先輩の
杉山金太郎さんと
東京で立ち上げた中外貿易を
核にして対米輸出をやろう

喜多又蔵が上京する？これは日綿筋だぞ！
喜多が動くとそれだけで生糸相場が動くと言われた
ゴトン
ゴトン
ゴトン
そういえば鈴木商店の金子さんが人絹の開発に力を入れているらしい
ゴトン
わしらもいずれ人造絹糸を取り扱いたい……いやできれば製造したいもんや
こののち日本綿花は人絹を巡って鈴木商店と対決することになる
ゴ
オ